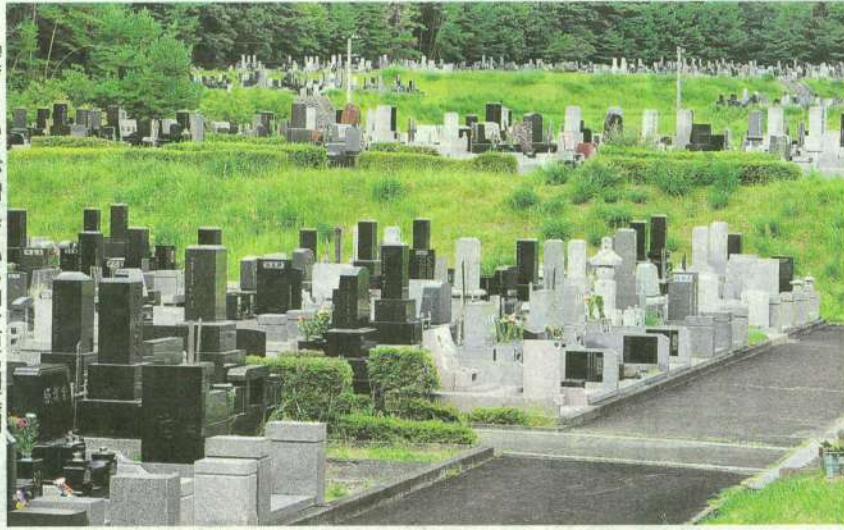


墓じまい 東北急増

22年度・8805件 10年で2割プラス



① 東北6県の
墓じまい件数



人生の最期に向けて準備する「終活」の一環で、先祖が眠る墓を処分する「墓じまい（改葬）」が東北でも急速に広がっている。直近10年で件数は2割増え、仙台市営の墓地に限れば4倍に急増している。維持する負担を子孫に残したくないとの思いや、単身世帯の増加といった家族の在り方の変化が背景にある。「バーチャル霊園」など墓じまいをサポートする葬儀業界のサービスも関心を集めている。（経済部・菊間深哉）

〔3面に連記事〕

② 仙台市営墓地の
墓じまい件数

厚生労働省衛生行政報告例

によると、墓石を撤去し更地に戻して敷地を墓地の管理者に返還する「改葬」の東北6県の件数はグラフ①の通り。

2013年度から10年間で緩やかに増加傾向をたどり、22年度は13年度比で20・8%増の8805件に上った。

仙台市の公営墓地は、成長期に東北各県から流入した人々が変わっていく中で、墓

じまいは極めて急ピッチで進んでいる。市健康福祉局事業概要によると、改葬件数はグラフ②通り。3カ所の墓地で23年度は計349件に増え、10年間で4・3倍となつた。

従来型は敬遠

市の担当者は「ここ数年で墓の需要が激しく変わった。23年度は従来型の墓の返還件数が、新たな貸出件数を初めて上回った」と説明する。

墓じまいで再び貸し出しに回った市営墓地の区画は、成約されずに空きになるケースが多い。少子化や非婚化といった家族の在り方の変化に伴つた墓の在り方の変化に伴い、代々跡継ぎが必要な従来型の墓は敬遠される傾向が強まる。

宮城、山形、東京の3都県で墓石小売店を展開するまつしまメモリーランド（宮城県松島町）は、今年から墓じまい流れを紹介した無料ガイドブックの配布を始めた。従来



でおのが、生前の親の責任と見られるような風潮に、いつの間にかなってきた」と明かす。

ネットに霊園

葬祭業の清月記（仙台市）

は、墓じまいが増えたことで遺骨を海にまく「海洋葬」の件数がここ数年、倍増を重ねている。ニーズの変化を先取りするとして、年内にも大手商社と連携した「バーチャル霊園」事業をスタートさせる。

故人の写真や文章といった思い出を親戚や友人同士で共有できるインターネット上の「お墓」で、物理的な墓ができる。

岡部健司専務は「墓は解体して終わりではなく、先祖の遺骨をどこかに移さなくてはいけない。合祀墓など次世代の負担の少ない改葬先を選ん

ており、墓じまいの実態を事前に正しく理解してもらう必要があった。

岡部健司専務は「墓は解体して終わりではなく、先祖の遺骨をどこかに移さなくてはいけない。合祀墓など次世代の負担の少ない改葬先を選ん

うことができる。

菅原裕典社長は「社会の変化で墓参りの機会が減つてしまふ」という話になる。納骨堂や樹木葬は一気に墓じまいするまでも、そもそも墓は必要なのかという話になる。

木葬は一気に墓じまいするまでも、そもそも墓は必要なのかという話になる。納骨堂や樹木葬は一気に墓じまいするまでも、そもそも墓は必要なのか